科目名	臨床心理学		
担当教員	小出 智則		
	実務経験		有
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	前	2	15

履修目的・授業概要

臨床心理学の基本的な知識を学びます.

到達目標

臨床心理学の基本的学びより，人の心の理解を深める.

授業の形式・方法

講義

成績評価の方法・基準

レポート課題（100%）

学生へのメッセージ

人を援助する職業に必要な人間理解の糸口となる心理学の基礎知識を学んでいきましょう.

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション	小出
2	臨床心理学とは何か	小出
3	心について	小出
4	パーソナリティー	小出
5	臨床心理アセスメント	小出
6	臨床心理検査	小出
7	臨床心理検査　2	小出
8	臨床心理検査　3	小出
9	臨床心理検査　4	小出
10	心理療法　1	小出
11	心理療法　2	小出
12	心理療法　3	小出
13	心理療法　4	小出
14	心理療法　5　　まとめ	小出
15	試験	小出

科目名	リハビリテーション医学		
担当教員	大田　哲生 及川　欧 林　恵充		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	通	1	15

履修目的・授業概要

リハビリテーションの意義を，より深く理解するために，広い立場から代表的なものを引用して総合的に学習する.

到達目標

リハビリテーションで実施する疾患・症状を理解し、治療に適応できる。

授業の形式・方法

講義

成績評価の方法・基準

試験　100％

学生へのメッセージ

皆さんがこれから、関わる患者様の事です。現場に出る前に理解しておいてください。

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所	価格
現代ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学	千野直一	金原出版	6820

コマ	履修内容	教員
1	リハビリテーション医学総論	大田
2	廃用症候群・ADL	大田
3	内部障害のリハビリテーション	及川
4	RA・骨関節疾患のリハビリテーション	及川
5	小児疾患のリハビリテーション	及川
6	脊損のリハビリテーション	及川
7	リハビリテーション医学のトピックス	大田
8	がんのリハビリテーション	及川
9	在宅（訪問）リハビリテーション	及川
10	脳卒中のリハビリテーション	林
11	神経疾患のリハビリテーション	大田
12	高次脳機能障害のリハビリテーション	及川
13	言語障害のリハビリテーション	大田
14	嚥下障害のリハビリテーション	大田
15	試験	担当

科目名	理学療法演習Ⅲ		
担当教員	吉田　幸史　　北村　　勝 冨永　恵理　　菊川　拓郎 小橋　泰文　　手代木　みなみ		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	通	1	15

履修目的・授業概要

来年の卒業研究につながる、個々のテーマに沿った調査を中心に演習を進めていく。同じテーマを持った者同士の討論を通じて問題解決の姿勢を養う。

到達目標

・“教えられる”、から“自ら学ぶ”姿勢を身につける。
・調査したことについて，学生同士でミニレクチャーができる。

授業の形式・方法

講義・実習

成績評価の方法・基準

卒業研究のテーマに沿ったレポートの提出

学生へのメッセージ

指定の教科書はありませんので，様々な書籍、文献を読んでみて，文献を利用する力も身につけてください。

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション	担当
2	テーマ別調査①	担当
3	テーマ別調査②	担当
4	テーマ別調査③	担当
5	テーマ別調査④	担当
6	テーマ別調査⑤	担当
7	中間発表	担当
8	テーマ別調査⑥	担当
9	テーマ別調査⑦	担当
10	テーマ別調査⑧	担当
11	テーマ別調査⑨	担当
12	テーマ別調査⑩	担当
13	最終発表	担当
14	卒論テーマの決定	担当
15	レポート提出	担当

科目名	臨床評価学実習		
担当教員	吉田　幸史 北村　勝 小橋　泰文 手代木　みなみ		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	通	1	24

履修目的・授業概要

模擬患者を通して統合と解釈をし問題点の抽出ができる.

到達目標

①模擬患者を通して適切な評価項目を抽出できる.
②仮想の評価結果から統合と解釈ができる.
③問題点を抽出することができる.

授業の形式・方法

主にPBL形式で行い、グループワークが中心となる．オムニバス形式のため、授業の順序は入れ替る場合がある.

成績評価の方法・基準

授業態度、レポート課題の内容で判定する．比率は手代木：小橋：北村：吉田＝３：３：２：２とする.

学生へのメッセージ

臨床実習へ向けての重要な授業の1つである．グループワークが中心となるため、自分自身の意見を積極的に発言することを期待する.

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	運動器疾患の仮説検証と問題点抽出①	手代木
2	運動器疾患の仮説検証と問題点抽出②	手代木
3	運動器疾患の仮説検証と問題点抽出③	手代木
4	運動器疾患の仮説検証と問題点抽出④	手代木
5	運動器疾患の仮説検証と問題点抽出⑤	手代木
6	運動器疾患の仮説検証と問題点抽出⑥	手代木
7	運動器疾患の仮説検証と問題点抽出⑦	手代木
8	運動器疾患の仮説検証と問題点抽出⑧	手代木
9	中枢性疾患の仮説検証と問題点抽出①	小橋
10	中枢性疾患の仮説検証と問題点抽出②	小橋
11	中枢性疾患の仮説検証と問題点抽出③	小橋
12	中枢性疾患の仮説検証と問題点抽出④	小橋
13	中枢性疾患の仮説検証と問題点抽出⑤	小橋
14	中枢性疾患の仮説検証と問題点抽出⑥	小橋
15	中枢性疾患の仮説検証と問題点抽出⑦	小橋

コマ	履修内容	教員
16	中枢性疾患の仮説検証と問題点抽出⑧	小橋
17	内部疾患の仮説検証と問題点抽出①	北村
18	内部疾患の仮説検証と問題点抽出②	北村
19	内部疾患の仮説検証と問題点抽出③	北村
20	内部疾患の仮説検証と問題点抽出④	北村
21	難病や維持期の患者様の仮説検証と問題点抽出①	吉田
22	難病や維持期の患者様の仮説検証と問題点抽出②	吉田
23	難病や維持期の患者様の仮説検証と問題点抽出③	吉田
24	難病や維持期の患者様の仮説検証と問題点抽出④	吉田

コマ	履修内容	教員

科目名	義肢・装具学		
担当教員	菊川　拓郎		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	前	1	15

履修目的・授業概要

理学療法における装具を用いた治療の位置づけの理解と装具利用に必要な知識や背景を理解する

到達目標

理学療法において装具を用いる目的の理解
各種装具の使用目的の理解
装具の利点・欠点を理解し、問題解決方法を考察

授業の形式・方法

講義14コマ・試験1コマ。

成績評価の方法・基準

筆記試験、60点以上を合格とする

学生へのメッセージ

臨床場面では様々な疾患の方に装具が適応となります。そのため装具利用に必要な知識を理解し、装具の重要性を学びましょう。

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所	価格
義肢装具学テキスト	細田多穂	南江堂	7000

コマ	履修内容	教員
1	装具総論～装具の目的・装具の役割・装具の適応疾患・装具の課題と展望	菊川
2	装具総論～各装具と運動力学・装具歩行の運動学	菊川
3	短下肢装具の種類と特徴 短下肢装具における足継手の種類と特徴	菊川
4	短下肢装具の利点・欠点 歩行における短下肢装具の働きと適応	菊川
5	長下肢装具の種類と特徴 長下肢装具における膝継手の種類と特徴	菊川
6	長下肢装具の利点・欠点 歩行における長下肢装具の働きと適応	菊川
7	靴型装具の定義 足部にみる主な変形と病態 靴の基本構造・靴の補正	菊川
8	下肢装具のチェックアウト チェックアウトの流れと項目 長下肢装具のチェックアウト	菊川
9	下肢装具のチェックアウト 短下肢装具のチェックアウト 靴型装具のチェックアウト	菊川
10	上肢装具の目的・上肢装具の特徴・構成要素 上肢装具の適応と適応疾患	菊川
11	頸部・体幹装具～ 装具の目的・基本的構造装具の種類と特徴 頸部・体幹装具のチェックアウト	菊川
12	頸部・体幹装具～ 装具の目的・基本的構造装具の種類と特徴 頸部・体幹装具のチェックアウト	菊川
13	脳卒中片麻痺患者に対する装具 上肢・下肢装具の適応 装具による歩行の特徴	菊川
14	脊髄損傷患者に対する装具 残存レベルと適応装具 脊髄損傷レベルと歩行・移動・ADL	菊川
15	１～１４コマの範囲について筆記試験を実施	菊川

科目名	日常生活活動実習		
担当教員	冨永　恵理		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	通	1	23

履修目的・授業概要

日常生活活動学で習得した知識を基礎として、様々な疾患 や障害特有のセルフケア、生活関連活動や基本動作の方法について分析、評価や練習、指導の具体的な方法について学習する。また、障害者を取り巻く生活環境を学ぶ。

到達目標

1.ADL関連の支援方法について説明できる。
2.基本的ＡＤＬ及び生活関連活動に関する支援方法について 説明できる。
3.各疾患の代表的な評価の採点及 び判定ができる。
4.介助方法 について、適切な選択や対象者の指導ができる

授業の形式・方法

講義と演習

成績評価の方法・基準

筆記試験（100%）

学生へのメッセージ

日常生活活動の知識を基に評価や動作指導、介助方法等を体験を通し、動作指導や介助方法等の学びを深めてください。

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所	価格
日常生活活動学	臼田滋	メジカルビュー社	5280

コマ	履修内容	教員
1	ADL評価の実際①	冨永
2	ADL評価の実際②	冨永
3	ADL評価の実際③	冨永
4	ADL評価の実際④	冨永
5	疾患別ADL（人工関節のADLと指導方法）	冨永
6	疾患別ADL（下肢切断のADLと指導方法）	冨永
7	疾患別ADL（神経筋疾患と指導方法）	冨永
8	疾患別ADL（片麻痺のADLと指導方法）	冨永
9	疾患別ADL（OAのADLと指導方法）	冨永
10	高齢者のADLと指導方法	冨永
11	基本動作の介助法について①	冨永
12	基本動作の介助法について②	冨永
13	基本動作の介助法について③	冨永
14	歩行補助具の使用方法と指導について①	冨永
15	歩行補助具の使用方法と指導について②	冨永

コマ	履修内容	教員
16	自助具の使用方法と指導について①	冨永
17	住居と住宅改造について①	冨永
18	住居と住宅改造について②	冨永
19	ケーススタディー①	冨永
20	ケーススタディー②	冨永
21	まとめ①	冨永
22	まとめ②	冨永
23	試験	冨永

コマ	履修内容	教員

科目名	運動療法実習Ⅱ		
担当教員	吉田　幸史　　高橋　浩史 三浦　拓　　浅川　永太		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	通	1	26

履修目的・授業概要

理学療法で使用頻度の高い手技的療法を学び、その理論，方法論を理解する。

到達目標

・神経筋疾患の理学療法ができる
・マニュアルセラピーについて理論，技術を理解できる。
・ボバースアプローチの理論，技術を理解できる。
・PNFの理論，技術を理解できる。

授業の形式・方法

オムニバス形式の講義（一部実習）

成績評価の方法・基準

確認テスト合格者で、筆記試験（100%）で評価する

学生へのメッセージ

臨床場面を想定し，実際の患者さんに対する心構えで臨んでください。

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所	価格
標準PT　神経理学療法学第2版	吉尾　雅春　他	医学書院	5400

コマ	履修内容	教員
1	神経・筋疾患　総論	吉田
2	神経・筋疾患　評価	吉田
3	パーキンソン病の理学療法	吉田
4	脊髄小脳変性症の理学療法	吉田
5	筋委縮性側索硬化症の理学療法	吉田
6	確認テスト	吉田
7	マニュアルセラピー１　総論	高橋
8	マニュアルセラピー２　評価について	高橋
9	マニュアルセラピー３　モビライゼーションについて	高橋
10	マニュアルセラピー４　上肢関節へのアプローチ	高橋
11	マニュアルセラピー5　下肢関節へのアプローチ	高橋
12	マニュアルセラピー6　頚部・体幹へのアプローチ	高橋
13	ボバースアプローチ１　総論	三浦
14	ボバースアプローチ２　ボバースアプローチとは	三浦
15	ボバースアプローチ３　臨床像１	三浦

コマ	履修内容	教員
16	ボバースアプローチ４　臨床像２	三浦
17	ボバースアプローチ５　評価	三浦
18	ボバースアプローチ６　クリニカルリーズニ	三浦
19	PNF１　総論	浅川
20	PNF２　PNFの運動パターン１	浅川
21	PNF３　PNFの運動パターン２	浅川
22	PNF４　PNFの運動パターン３	浅川
23	PNF５　固有受容器への刺激方法	浅川
24	PNF６　PNFの基本的テクニック	浅川
25	PNF７　PNFの特殊テクニック	浅川
26	筆記試験	各担当

コマ	履修内容	教員

科目名	神経系の理学療法Ⅰ		
担当教員	小橋　泰文 渡邊　篤		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	前	1	15

履修目的・授業概要

脳卒中などの成人中枢神経疾患の理学療法を学ぶ

到達目標

・神経生理学，神経系の解剖学等の基本的内容が理解できる。
・各神経疾患に対する理学療法を理解できる。
・脳画像から理学療法に必要な情報を考えられる。

授業の形式・方法

講義

成績評価の方法・基準

筆記試験：授業態度の比率を9：1として，総合的に成績を判定する。

学生へのメッセージ

配付資料だけではなく，教科書も熟読しその内容を理解するようにしてください。

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所	価格
中枢神経系理学療法学	山口智史	医歯薬出版株式会社	5500

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション 中枢神経系理学療法の役割と目的，概要	小橋
2	脳卒中の基礎医学知識と臨床症状	小橋
3	脳卒中のリスクマネジメントの知識	小橋
4	中枢神経疾患の病態・臨床症状と評価①	小橋
5	中枢神経疾患の病態・臨床症状と評価②	小橋
6	中枢神経疾患の病態・臨床症状と評価③	小橋
7	中枢神経疾患の理学療法①	小橋
8	中枢神経疾患の理学療法②	小橋
9	中枢神経疾患の理学療法③	小橋
10	中枢神経疾患の理学療法④	小橋
11	中枢神経疾患の理学療法⑤	小橋
12	姿勢定位障害（pusher現象など）	渡邊
13	中枢神経疾患における装具療法	渡邊
14	CT・MRI読影	渡邊
15	筆記試験	小橋

科目名	神経系の理学療法Ⅱ		
担当教員	小塚　直樹 横井　裕一郎 鎌塚　香央里 三浦　利彦		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	前	1	16

履修目的・授業概要

小児疾患の治療を学ぶ

到達目標

各疾患の特徴と治療方策を考える事が出来る。

授業の形式・方法

講義

成績評価の方法・基準

筆記試験（100%）

学生へのメッセージ

2年次の各疾患の復習をして授業に臨んでください。

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所	価格
小児理学療法学テキスト	田原　弘幸　他	南江堂	5040

コマ	履修内容	教員
1	小児疾患	小塚
2	発達障害の総論	小塚
3	障害タイプ、その特徴、治療上の注意	小塚
4	正常発達と発達異常	鎌塚
5	原始反射と姿勢制御	鎌塚
6	脳性麻痺の発達障害	鎌塚
7	障害タイプ別、その特徴	横井
8	障害タイプ、評価	横井
9	障害タイプ、治療上の注意	横井
10	精神発達障害	小塚
11	二分脊椎	小塚
12	まとめ	小塚
13	筋ジストロフィーの特徴と評価	三浦
14	筋ジストロフィーの呼吸障害に対して1	三浦
15	筋ジストロフィーの呼吸障害に対して2	三浦

コマ	履修内容	教員
16	試験	担当

コマ	履修内容	教員

科目名	内部障害系の理学療法Ⅰ		
担当教員	北村　勝 三上　美紀		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	前	1	17

履修目的・授業概要

呼吸理学療法について学ぶ。

到達目標

1.主な呼吸器疾患の病態、評価、治療方法を理解する。
2.主な呼吸器疾患のリスク管理について理解する。

授業の形式・方法

教科書、プリント、視聴覚教材を活用しながら講義形式を中心に行う。

成績評価の方法・基準

筆記試験により評価する(100%)。

学生へのメッセージ

呼吸器疾患を持つ対象者は年々増加しており、今後臨床の場面で関わる機会がますます増加することが予想される。このことを踏まえ、主体的に学んでほしい。

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所	価格
（教）最新理学療法学講座　内部障害理学療法学	高橋哲也	医歯薬出版株式会社	5280
（参）リハ実践テクニック　呼吸ケア　第4版	塩谷隆信 他	メディカルビュー	5280

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション―講義内容、進め方を理解する	北村
2	呼吸器の解剖・生理・運動学について理解する	〃
3	〃	〃
4	〃	〃
5	酸塩基平衡の機序について理解する	〃
6	呼吸不全の定義、要因について理解する	〃
7	スパイログラムの見かたを理解する	〃
8	呼吸器系の視診・触診・打診・聴診、画像の見かたを理解する	〃
9	呼吸器疾患に対する運動療法（総論）について理解する	〃
10	〃	〃
11	呼吸器疾患に対する運動療法（各論）について理解する	〃
12	〃	〃
13	リラクセーション、呼吸介助、排痰法を習得する	〃
14	〃	〃
15	気管吸引の手順を理解し、吸引シュミレーターを使用して実際に体験する	三上

コマ	履修内容	教員
16	〃	三上
17	試験	北村

コマ	履修内容	教員

科目名	内部障害系の理学療法Ⅱ		
担当教員	近藤　和夫 木津　伸也 呂　隆徳 吉田　幸史		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	通	1	15

履修目的・授業概要

糖尿病，心疾患，がんの理学療法について学ぶ。

到達目標

・内部障害疾患に対する理学療法の理解を深める。
・各疾患の症状と障害および理学療法の理論と実際を関連付けて理解できるようになる。

授業の形式・方法

講義

成績評価の方法・基準

筆記試験（100%）

学生へのメッセージ

講義内容について解決できなかった疑問点は遠慮せずに質問してください。

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所	価格
内部障害理学療法学テキスト改訂第2版	細田多恵	南江堂	5280

コマ	履修内容	教員
1	**心疾患の理学療法** 「心リハとは？」循環器の解剖，運動，生理の復習	近藤
2	**心疾患の理学療法** 循環器疾患の病態，治療	近藤
3	**心疾患の理学療法** バイタルサイン，CPXデータの診かた（正常な反応）	近藤
4	**心疾患の理学療法** 心電図の診かた，不整脈	近藤
5	**心疾患の理学療法** 心リハ各論（急性心筋梗塞，狭心症慢性心不全，開心術後，末梢動脈疾患）	近藤
6	**心疾患の理学療法** 症例ディスカッション	近藤
7	**糖尿病の理学療法** 代謝障害	木津
8	**糖尿病の理学療法** 運動と消費カロリー	木津
9	**糖尿病の理学療法** 糖尿病に対する運動強度と頻度	木津
10	**糖尿病の理学療法** 糖尿病の評価	木津
11	**糖尿病の理学療法** 糖尿病のリスク	木津
12	**がんの理学療法** 総論	呂
13	**がんの理学療法** 治療方針	呂
14	**がんの理学療法** 症例検討	吉田
15	筆記試験	各担当

科目名	骨関節系の理学療法Ⅰ		
担当教員	北村　勝		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	前	1	15

履修目的・授業概要

運動器障害全般で理学療法施行時の注意点を学ぶ。

到達目標

1.主な運動器疾患の病態、評価、治療方法を理解する。
2.主な運動器疾患のリスク管理について理解する。

授業の形式・方法

教科書、プリントを活用しながら講義形式で行う。

成績評価の方法・基準

筆記試験により評価する。(100%)

学生へのメッセージ

運動器疾患を持つ対象者は年々増加しており、今後臨床の場面で関わる機会がますます増加することが予想される。このことを踏まえ、主体的に学んでほしい。

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所	価格
(教) 15レクチャーシリーズ　運動器障害理学療法Ⅰ　第2版	河村廣幸	中山書店	2860
(教) 15レクチャーシリーズ　運動器障害理学療法Ⅱ　第2版	河村廣幸	中山書店	2860

コマ	履修内容	教員
1	オリエンテーション―講義内容、進め方を理解する	北村
2	主な骨折の特徴および理学療法について理解する	〃
3	〃	〃
4	〃	〃
5	膝靱帯損傷・半月板損傷の特徴および理学療法について理解する	〃
6	〃	〃
7	変形性関節症の特徴および理学療法について理解する	〃
8	〃	〃
9	〃	〃
10	頸部・腰部疾患の特徴および理学療法について理解する	〃
11	〃	〃
12	〃	〃
13	末梢神経損傷の特徴および理学療法について理解する	〃
14	〃	〃
15	試験	〃

科目名	骨関節の理学療法Ⅱ		
担当教員	近藤　伸英 木津　伸也 手代木　みなみ		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	後	1	17

履修目的・授業概要

骨・関節疾患における理学療法の実際を学ぶ

到達目標

①下肢疾患に対する理学療法の実際について理解する
②上肢疾患に対する理学療法の実際について理解する
③脊椎疾患に対する理学療法の実際について理解する

授業の形式・方法

教科書・プリントを中心とし講義と実技を交えながら授業を進めていく．オムニバス形式の講義で行う．

成績評価の方法・基準

筆記試験のもとに成績を判定する．比率は下肢・上肢疾患75点, 脊椎疾患25点の計100点とする．

学生へのメッセージ

評価臨床実習,総合臨床実習にむけて治療学を身につけることが必須である．骨・関節疾患は実習において携わることが非常に多い．様々な参考書を活用して,積極的に学ぶことを期待する．

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所	価格
15レクチャーシリーズ　運動器障害理学療法Ⅰ	石川　朗	中山書店	2640
15レクチャーシリーズ　運動器障害理学療法Ⅱ	石川　朗	中山書店	2640

コマ	履修内容	教員
1	股関節の機能解剖	手代木
2	股関節疾患の理学療法評価	手代木
3	股関節疾患に対する理学療法の実際①	手代木
4	膝関節の機能解剖と理学療法評価	手代木
5	膝関節疾患に対する理学療法の実際	手代木
6	足関節疾患の理学療法評価と治療の実際	手代木
7	肩関節の機能解剖	近藤
8	肩関節疾患の理学療法評価	近藤
9	肩関節疾患に対する理学療法の実際①	近藤
10	肩関節疾患に対する理学療法の実際②	近藤
11	肘関節疾患の理学療法評価と理学療法の実際	近藤
12	手関節疾患の理学療法評価と理学療法の実際	近藤
13	脊椎の機能解剖と運動学	木津
14	脊椎疾患の理学療法評価	木津
15	脊椎疾患に対する理学療法の実際①	木津

コマ	履修内容	教員
16	脊椎疾患に対する理学療法の実際②	木津
17	筆記試験	木津 近藤 手代木

コマ	履修内容	教員

科目名	スポーツ理学療法		
担当教員	手代木みなみ 前田　健太郎		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	後	1	15

履修目的・授業概要

下肢のスポーツ障害に対する理学療法の理論と実際，運動器疾患の特殊検査について学ぶ．

到達目標

①運動器疾患の特殊検査を実施することができる
②下肢スポーツ障害に対する理学療法を理解する
③下肢スポーツ障害に対する基礎的な理学療法プログラムを立案する事ができる

授業の形式・方法

講義と実技を交えながら授業を行う．オムニバス形式の授業であることから，授業の順序は入れ替る場合がある．

成績評価の方法・基準

筆記試験の結果で成績を判断する．比率は手代木，前田それぞれ50点の計100点の試験とする．

学生へのメッセージ

評価臨床実習，総合臨床実習に向けて身に付けておくべくき授業内容である．実技を交えながら授業を行うことから積極的に学ぶことを期待する．

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所	価格
なし			

コマ	履修内容	教員
1	特殊検査の意義の理解	手代木
2	上肢疾患の特殊検査を学ぶ①	手代木
3	上肢疾患の特殊検査を学ぶ②	手代木
4	脊椎疾患の特殊検査を学ぶ	手代木
5	下肢疾患の特殊検査を学ぶ①	手代木
6	下肢疾患の特殊検査を学ぶ①	手代木
7	スポーツ理学療法の目的や意義の理解	手代木
8	成長期におけるスポーツ理学療法の実際を学ぶ	手代木
9	膝・足関節の機能解剖	前田
10	膝・足関節の理学療法評価を学ぶ①	前田
11	膝・足関節の理学療法評価を学ぶ①	前田
12	膝・足関節の理学療法の実際を学ぶ①	前田
13	膝・足関節の理学療法の実際を学ぶ②	前田
14	膝・足関節の理学療法の実際を学ぶ③	前田
15	筆記試験	手代木 前田

科目名	その他の理学療法		
担当教員	菊地　惇（脊髄損傷） 冨永　恵理（関節リウマチ）		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	前	1	17

履修目的・授業概要

脊髄損傷・関節リウマチについての疾患の特徴を振り返り、理学療法施行と注意点を学ぶ

到達目標

1.脊髄損傷・関節リウマチに対する評価と基本的な理学療法を理解できる。
2.脊髄損傷・関節リウマチ患者の生活活動能力や帰納的予後、リスク管理等の理解を深める

授業の形式・方法

講義・演習（オムニバス形式により順序が変更になることがあります）

成績評価の方法・基準

筆記試験（100%）

学生へのメッセージ

講義後、復習を十分に行ってください。

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所	価格
脊髄損傷の理学療法（第3版）	岩﨑洋	文光堂	6500
リハ実践テクニック関節リウマチ	西林保朗	メディカルビュー社	4800

コマ	履修内容	教員
1	脊髄障害理学療法総論	菊地
2	疫学、神経合併症など	菊地
3	総合評価(ASIA)、機能予後予測など	菊地
4	急性期の理学療法	菊地
5	回復期の理学療法	菊地
6	不全脊髄損傷に対する理学療法	菊地
7	総括 1	菊地
8	総括 2	菊地
9	疫学・病因・病理・病態等	冨永
10	診断基準・検査項目・経過	冨永
11	関節リウマチの評価	冨永
12	関節リウマチの理学療法	冨永
13	治療の実際	冨永
14	基礎療法	冨永
15	外科的手術・装具療法	冨永

コマ	履修内容	教員
16	関節リウマチの日常生活活動	冨永
17	筆記試験	佐藤 冨永

コマ	履修内容	教員

科目名	卒業研究		
担当教員	吉田　幸史 笠井　理菜子		
実務経験	無		
対象学年	講義時期	単位数	コマ数
3	後	1	15

履修目的・授業概要

卒業研究実習に入る前に必要な知識を学ぶ。

到達目標

卒業研究がスムーズに行える。

授業の形式・方法

講義

成績評価の方法・基準

課題提出内容と講義態度を総合的に判断　（8：2）

学生へのメッセージ

卒業研究実習がスムーズに進むように基本は理解してください。

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所	価格
リハビリテーション統計	山本澄子	南江堂	3400

コマ	履修内容	教員
1	総論	吉田
2	研究展開①	吉田
3	研究展開②	吉田
4	研究展開③	吉田
5	文献検索①	笠井
6	文献検索②	吉田
7	実験設計	吉田
8	データ解析①	吉田
9	データ解析②	吉田
10	データ解析③	吉田
11	データ解析④	吉田
12	発表①	吉田
13	発表②	吉田
14	論文の書き方①	吉田
15	論文の書き方②	吉田

科目名	評価臨床実習		
担当教員	吉田　幸史　　北村　　勝 冨永　恵理　　菊川　拓郎 小橋　泰文　手代木　みなみ		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
3	前	3	135

履修目的・授業概要

実際の臨床場面において、評価プロセスを経験する

到達目標

今後の総合臨床実習では、評価を通して問題点の抽出、治療方針、治療プログラムを設定する。その、評価が効率的に、また的確に実施できる。

授業の形式・方法

臨床実習

成績評価の方法・基準

臨床実習地と学内評価　（5：5）

学生へのメッセージ

社会人として、医療人としての言動に気を付けてください。また、患者様には協力頂けることに感謝して実習を遂行してください。

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所	価格
なし			

履修内容

令和7年8月25日～9月20日
（正味20日間×8時間＝160時間）

①学内においてpre－OSCEとpost－OSCE、CBTを実施

②実習地において以下を実践する
・評価計画
・情報収集
・検査・測定
・障害の理解
・問題点抽出
・サマリーの作成

③　症例検討会において他の学生が経験した事を共有する

科目名	総合臨床実習Ⅰ		
担当教員	吉田　幸史　　北村　　勝 冨永　恵理　　菊川　拓郎 小橋　泰文　手代木　みなみ		
実務経験	有		
対象学年	講義時期	単位数	時間数
3	後	6	270時間

履修目的・授業概要

理学療法教育の最終段階として実施されるもので、『理学療法業務の総合的な臨床学習』である。

到達目標

・実習指導者による指導，助言の下に，評価，治療計画，治療という一貫した治療行為が実践できる。
・高い倫理観のもと，専門的な知識を基盤とする，根拠に基づく基本的な理学療法を適切に実践できる。

授業の形式・方法

臨床実習

成績評価の方法・基準

実習地評価と学内評価　（5：5）

学生へのメッセージ

医療・社会における理学療法士の役割について理解し，理学療法士としての行動，態度を実践的に学んでください。

＜教科書・参考書＞

書名	著者名	発行所	価格
なし			

履修内容

令和7年10月20日～12月13日
（正味38日間×8時間＝308時間）

①学内においてpre－OSCEとpost－OSCE、CBTを実施

②実習地において以下を実践する
・評価計画
・情報収集
・評価
・障害の理解
・問題点の抽出
・目標の設定
・治療計画の立案
・治療の実施
・再評価
・治療の変更
・サマリーの作成

③　症例検討会において他の学生が経験した事を共有する